



もうすぐ子どもの誕生日。

12歳になるその子は、あの時すでにひっそりとお腹にいた事になる。

あの時の地震の後、妊娠に気づいていなかった私は、すぐに故郷の北海道に帰ろうと思った。そっとするほどの鳥の群れが、南から北に向かうのを見たからだ。

それは原発が爆発した日。

北に向かう鳥の、動物的な本能を見たような気がして、ハツとしたのだ。

色々なものがなくなつた時、自分も子を守る、動物のカンのようなものに動かされたのかもしれない。

北に帰ってきた私たちの意識は、地震を体験した事によって大きく変わった。

何を優先するのか、何が大事なのか、気付かされた。それが地震だった。

すべての機能が止まり、原始に戻つた時、ただ生きることしか考えなかった。この水をいつ飲むか、次はいつ何を食べられるのか…

食べる事は生きる事である事を思ひ知った。

そして生きる事に直結した仕事があったい、と思うようになる。

この思いが自然と農業に向くには時間はかからなかった。

そのために農村に移住し、6年間の農業経験の後、4年前にミニトマトで新規就農する事ができた。

私達にとって、地震は生き方すら変えるきっかけになった。

土の匂いのするところで子どもを育てたい、という希望も叶い、今この生活が幸せだと思える。

だから、地震は悪いことばかりではなかった。後悔しないように生きよう、続くと思っていた事が続かなくなってしまう事があるから、と。

来年も必ず見ようと思った塩竈神社の帆手祭り、リサイクルショップで見つけた、ノリタケのストロンウエア、旦那が通勤で使っていたお気に入りのMTB、私がもらはずだったホワイトデーのお返し、現地で食べたかった定規さんの三角揚げ、スーパーさいちのおはぎ、仙台

また今度、と思った。また今度、は無かった。

また今度、は無かった。

の河原で食べるはずの芋煮、買わなかった気仙沼海の家のおにぎり。

また今度、と思っていた。

また今度、は無かった。

だから、後悔しないように生きよう。

そう思っていた、はずだった。

今年の6月、お義母さんが亡くなった。肺がんが見つかったから3ヶ月経たずに。

焼肉屋のお義母さんが作っていた自家製のタレ、大晦日に孫の分まで大量に作るうま煮、食べる食べるとテールいっぱい並べる料理の数々、いつか作り方を聞こうと思っていた。

いつでも聞けるような気がしていた。

また今度、は無かった。

結局私は、またすごく後悔するようになった。

もう後悔したくないと思っていたのに。

先日、南幌での芋煮会に参加させて頂き、やり残していた事を一つ体験することができた。

芋はじゃがいもでしかない北海道で、里芋の入った芋煮を食べながら、お義母さんのうま煮には里芋が入っていたな…と思いついていた。

味の記憶を辿りながら、今年の大晦日は里芋でうま煮を作ってみよう。食べきれないほどいっぱい作ってみんなに食べてもらおう事が何よりも幸せだったのであるうお義母さんへの、せめてもの供養になるように。

宮城県宮城野区で被災 新篠津村在住 原田理恵

なんでもあと回しにしな〜い!



また今度、なんて無いかも!?今が肝心!